ヲ見テ來ル物好ハナイカ山登リ丈ニ渡米シタ人達サヘアルノダカラ近代日本ニハ其位ノ物好キガ絶無デモナカラウ、H. G. Wells ノ世界史ヲ見ルト彼ハ日本ヲ指シテ she（日本ハ）has received much（歐洲文明ヲ）but she has given little ナド、言ッテ居ルカラ日東學徒ノ氣焰ヲ擧グルノニハコレモ一ツノ「チャンス」カモ知レナイ

【牧野曰ク】右ノ二ツトシテアッタ竹ガ若シ一ツニナレバコレハ Arundinaria tecta (Walt.) Muhl. (1817) ノ名デ呼バネバナラヌコトダト私ハ思フ、ナゼナラバ此レハ其中ノ一ツガ Arundo tecta Walt (1788) ノ名デ逸早ク世ニ公ニセラレタカラデアル、A. macrosperma Michx. (1803) ハ其後ニ出來タ一方ノ名デアルカラ前文久内君ガ述ベラレタヤウニドテラカゞ其一變種ト定マレバ其名ハ須ラク Arundinaria tecta (Walt.) Muhl. var. macrosperma (Michx.) ト整理スベキモノデアル、此米國ノ竹デ面白イコトハ其地下莖即チ根鞭ガ「シンポヂアル」(Sympodial) デアルコトデアル、我日本ノめだけノ地下莖ハ「モノポヂアル」(Monopodial) デアルカラ右等トハ根本的ニ異ッテヰル、其レ故先キニ中井猛之進博士ガ我めだけノ一群ヲ從來 Arundinaria トシテアッタノカラ分離シテ別ニ新屬 Pleioblastus ヲ建テタノハ確ニ合理的デ吾人ハ之レヲ正當ノ見デアルト認メル、然シ其米國產ノ Arundinaria ノ地下莖ヲ「シンポヂアル」デアルト始メテ唱フルノハ私デアルガ中井君ガ Pleioblastus 屬ヲ建テタ時ハ何等其事ニハ言及シテヰナイ、少クモ私ノ見タ此竹ノ載ッテヰル書物ニモ亦其ンナ事實ハ書イテナイ、私ハ久内君ガ米國カラ取寄セラレタ Arundinaria ノ標品ヲ實驗シテ始メテ其地下莖ノ狀ヲ知ッタノダ、此「シンポヂアル」デアルト云フ點ハ私ノ建テタ我ガ Sasaella 屬ト一致シテヰル（T. Makino.）

○植物ヲ原料トシタ羽後秋田名産

秋田縣師範學校　村松七郎

（一）秋田ノあきたぶき

植物ヲ原料トシタ羽後秋田名産

あきたぶき (Petasites japonicus Miq. var. giganteus in Gard. Chron.)
秋田市外仁井田村栽培畑ノ收穫

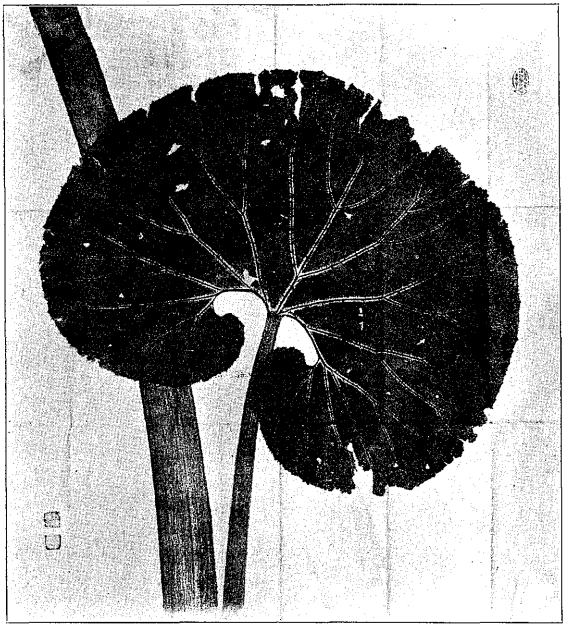
秋田蕗ハ形チガ大キナノデ有名デ食用トシテハ美味シクナイ、現在デノ栽培ノ本場ハ秋田市外仁井田村デ小面積ニ限ラレテ居ル只名産トシテ蕗ノ砂糖漬ヲ作ルニ止マルノデ年々ノ需要ハ殆ド限定サレテ居ルカラデアル、蓋シ山間自生ノモノヲ栽培シタモノデアルガ何等蔬菜的ニ改良サレタ所ハ見エナイ、仁井田村小玉氏ノ栽培品ヲ測ルニ大ナルハ高サ葉柄ノミデ五尺一寸餘、下端ノ大サハ周リ五寸六分ニ達スルモノガアッタ、葉ハ長徑三尺四寸位ニナル、此ノ葉片ガ五尺餘ノ柄ニ着クノデアルカラ栽培畑ノ中ニ入レバ普通ノ人ナラバ大概身ノ丈ヲ沒スル

秋田蕗ハ獨リ秋田ノミニ產スル理デナク隣縣ハ勿論北海道樺太ニ於テハヨリ巨大ナモノヲ產スルトイフ、自生ノモノハ若イ內ニ取リ煠デテ冬間ノ糧ニ鹽藏スルカ又味噌漬等ニモスル、小生ガ縣內ニ於テ實見シ測定シタ大キイモノハ次ノ通リデアル、人ノ多ク入ラヌ山間

溪谷ニ入ルト時々出會スル、雄勝郡秋ノ宮村ノ奥地デ地上葉柄ノミデ四尺五寸位ノモノアリ四尺ヨリ三尺五寸位ノモノガ多イ、中ニ入レバ首丈位ハ沒スル、下端ノ周リモ四寸二三分アッタ

（二）秋田蕗ノ「ステッキ」

秋田ノ名産ニ蕗ノ「ステッキ」ガアル・其ノ杖面ニ縦條ガ明瞭ニ通ッテ褐色ニ仕上リ仲々雅致ノアルモノデ相當高價デアル、此レハ葉柄ヲ陰乾スルト中心ハ空洞トナテ居ルノデ乾固シテカラ空洞ニ木ノ棒ヲ具合ヨク挿入シ丈夫ニシテ製スルノデアル



秋田名産蕗摺

（入挿者輯編）

（三）蕗摺

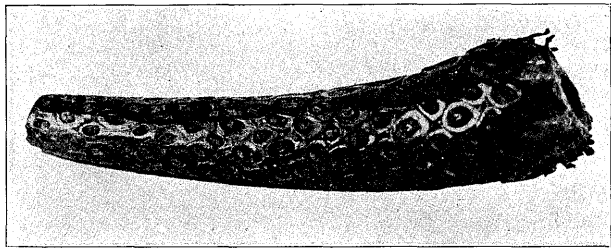
一名富貴摺リト稱シ蕗ヲ富貴ニ通ハシテ縁起ヲ祝フ名産ノ一ツデアル、葉片ト葉柄トノ部分ヲ壓乾シタモノ卽チ植物ノ臘葉標本ト同様ナモノデアル、之レヲ型トシテ通常綠ノ色素ヲ塗ッテ布地ニ型付ヲシタノデ葉脈等ガ美シク現レ非常ニ雅致ノアルモノデアル、服紗ニ製シ又風呂敷ヲ作リ唐紙等ニ貼ル

【牧野曰フ】　ふきニ款冬ノ漢名ヲ用ウルノハ大ナル誤リデアルコトガ本誌ノ第一巻第一號ニ詳說シテアルガ又蕗ノ字ヲ充テ用ウルノモ亦誤リデアル、我邦ノふきハ支那ニハ無イカラ從テ支

那名ノアラウハズガナイ

（四）鳥海「パイプ」

鳥海山麓由利郡矢島町デ近年作リ出シタ名産ノ一ッデアル、之レハぜんまいノ根莖ヲ掘リ採リ「パイプ」形ニ作リ中心柱ヲ取出シテ中心ニ孔ヲ穿チ「パイプ」ニ仕上ゲタモノデ野趣ニ富ミ頗ル優雅ナモノデアル、葉柄本ノ痕ガ表面ニ現レテ紋狀ヲナシ美シイ



（大約½）「パイプ」ニ製セテ莖下地ノいまんぜ

（五）ぜんまい織

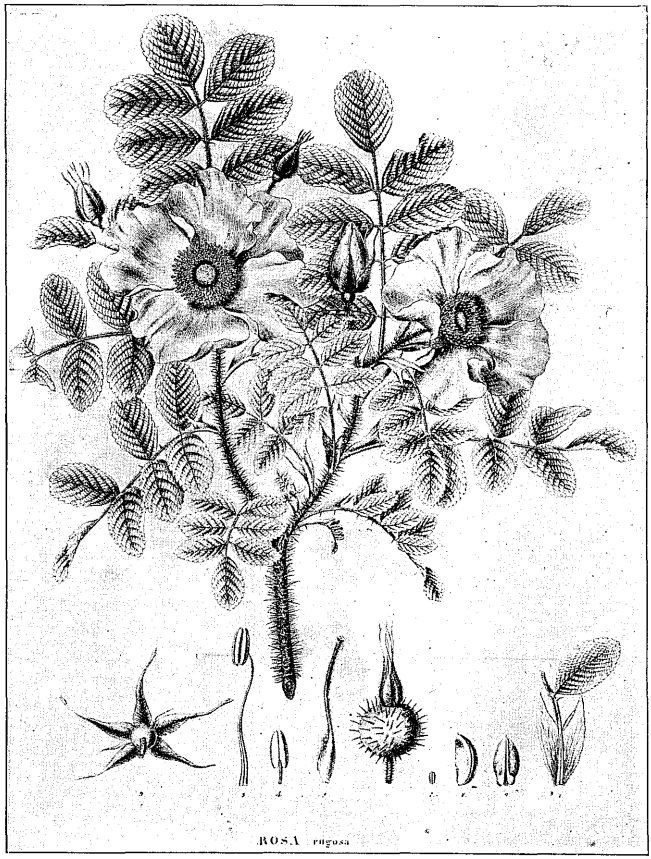
ぜんまい織ハ由利郡龜田町ノ特產織物デアル、明治二十六年頃ヨリ創始セラレタモノデ佐藤雄次郎氏ノ創業ニヨルモノデアル、氏ハぜんまい綿ガ防濕保溫ニ效アルコトニ着目シ苦心ノ結果考案シタモノデ、ソノ後多少ノ改良ヲ加ヘテ現在ノ製品ヲ得ルニ至ッタトイフコトデアル

夫レ以前ヨリぜんまい綿ハ山地ニ於テハ木綿ノ代用トシテ相當用ヒラレタトイフ、又日露役以前マデハ小供ノ毬ハ心ニぜんまい綿ヲ入レテ作ルコトガ一般デアッタ

ぜんまい織ハ一見「セル地」カ「ネル地」ノヤウデ單衣、羽織、婦人「コート」地、座蒲團等ニ使用スル、現在デハ全國的ニ需要ガアルトイハレテ居ル

ぜんまい綿ノミデハ纖維ガ短カイタメニ普通木綿ヲ混ジテ紡績スル、紡績及打綿等ニモ相當至難ノ點ガアルトイフ、原綿ノマヽ用ヒ又染色シテ紡織スル、ぜんまい綿ハ食用ぜんまいヲ採取スルトキ同時ニ附着スル綿狀物即チぜんまい綿ヲ集メル、原料ノぜんまい綿ハ一貫匁選別ノヨイモノデ一圓五十錢位スルトイフ

（六）秋田八丈



はまなす（はまなしガ本當）(Rosa rugosa Thunb.)
(P. Fr. Siebold et T. G. Zuccarini, Flora Japonica, I. tab. 82.)
（縮小）　（編輯者挿入）

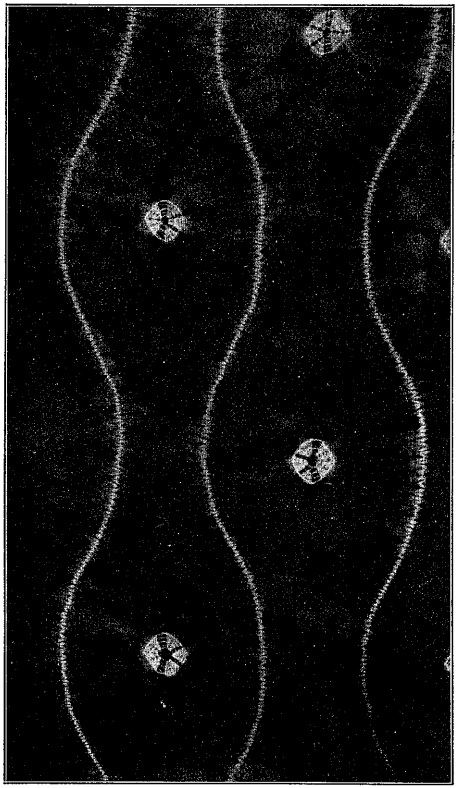
秋田八丈織ノ染料ハはまなす（處ニヨリはまなし）ノ根ヨリ採ッタモノデアル、はまなすハ當地ノ海岸ニハ到ル處繁生シテ居ル、（牧野先生ハ「斷枝片葉」中ニ濱梨ノ義デ語尾ノすトしトヲ誤ッタカラダト申サレタガソノ通リデ普通ノ梨ヲモなすト發音スルコトハ一般トイフモ過言デナイ位デアル、小供等ハ果實ガ熟スレバ食スル又赤熟シタ實ヲ圓子ノ如ク通シテ輪ニナシ盂蘭盆ノトキ之レヲ佛前ニ供ヘル）

此ノはまなすハ根ヲ五月頃未ダ開花ノ前ニ掘取リ之レヲ打テ木質部ヲ去リ根ノ皮ノミヲ用フル

最近出版サレタ百科辭書ノ秋田八丈ノ項ニ「玫瑰ノ煮出汁ヲ用ヒテ黃色ヲ染メ出シマタ鐵鹽ノ媒染デ茶色ヲ染出ス」トアル

ガ小生ノ觀タ所デハはまなすノ根ノ煎汁デ染メ上ゲタモノハ「チョコレート」色デコレハ煎汁ソノモノガ既ニ赤褐色デアルカラデアル、黃色ハ化學藥品ノ「オーラミン」ヲ用フルトイフコトデアル

はまなすノ根ノ皮ヲ大釜ニ入レテ煎汁ヲ作リソノ中ニ染絲ヲ麻袋ニ入レテ浸シテ煮詰メルト「チョコレート」色ニ染上ル、ソレヲ石灰水（清澄液）ニ入レテ色止メヲ行フ、以前ハ農家デはまなすノ根ヲ求メ木綿ヲ染メテ自織ニシタモノデアッテ之レヲはまなす茶トイフ、今ハ主トシテ絹物ノミデアルガ現在ハ秋田八丈ヲ染色製織スルノハ只一軒ギリトナッタ



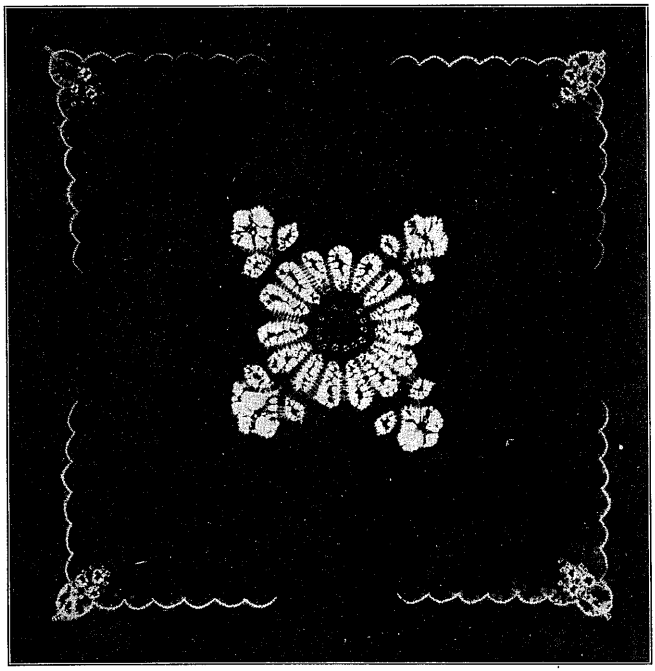
秋田縣鹿角郡花輪町小田切健造方ニテ小生ノ染メサセシ紫根染（絹地）（牧野富太郎記）
（編輯者插入）

（七）かづの紫根染

秋田縣內デアルガ陸中花輪町ガ本場デ此ノ邊ハ鹿角郡デアル所カラかづの紫根染トイフ、岩手縣領ニモ多少殘ッテ居ルヤウデアル

古來主上ノ御衣ノ紫色ハ紫根染デアリ尙現在デモ御卽位ノ大典ニ佩カセ給フ御太刀ノ御下緒（サゲヲ）ノ如キハ紫根染ヲ御用ヒニナルト承ル、當地デモ昔ハ嫁入リノ調度品ノ中ニ紫根染ヲ入レタ地方ガアル、是レハ古來紫根染、鹿角紫、かづの紫紋ト稱セラル、此レニハ二種ノ植物ガ用ヒラル、一ツハ染料トシテノ紫根卽チむらさき Lithospermum officinale L. var. erythrorhizon Maxim. ト媒染劑トシテノさはふたぎ Symplocos cra-

植物ヲ原料トシタ羽後秋田名産



秋田縣鹿角郡花輪町小田切健造方ニテ小生ノ染メサセシ
茜染（絹地）（牧野富太郎記）
（入稿者挿入）

taegoides Buch-Ham. デアル

さはふたぎハ方言ヲにしごり又ハにしこーりトイフ、此ノ灰ヲにしごり灰トイフ此ノ灰ハ他ノ木灰ヨリハ軟ク火モチガ良イトイフ、七八月作ルガ秘傳ガアルラシイ、古昔ニ於テハ鹿角郡ノ大湯町等部落折戸部落デハにしごり灰ヲ作リ之レヲ賣ッテ生業トシタモノガアッタト謂ハレル

染色法（木綿）

綿布一反ノ重量一六〇匁乃至一八〇匁ニツキにしごり灰一升五合（又水一升ニにしごり灰一合五勺）ノ割合ニ水ヲ加ヘ一時間位煮沸シテ靜置シソノ上澄液ヲ用フ、次ニ木綿ヲ四五時間煮沸シテ十分ニ水洗シ之レヲ前述ノ上澄液（灰汁）ニ浸シ斑ナク絞ッテ天井裏等ニ吊シテ乾ス、此ノ作業ヲ繰返シ二三十回行フ、充分灰漬ケサレタモノヲ種々ノ圖案ニヨリテ適當ニ麻絲デ括リ上ゲ之レヲ炭火ノ上デ數ケ月乾燥スルトイフ

紫根ハ内部マデ黑紫色ヲ呈シテ居ル、之レヲヨク水洗ヒヲナシ汚物ヲ去リ石臼デ搗イテ碎キ竹笊上ニ移シテ鹽

上ニ置キ上ヨリ熱湯ヲ注グト紫ノ色素ハ抽出サレテ器物ニ紫液ガ溜マル、紫根ハ綿布一反ニ二三百匁入用トイフ、此ノ色素中ニ灰漬ノ十分ナモノヲ約一時間位浸シ取リ出シテ乾燥シ再三再四繰返シテ三十回位行ヒ最後ニ絞リ絲ヲ除キ水洗シ乾燥サセテ仕上ゲル、絹地ノ場合ニハ灰漬ケダケデモ百回位ニモ及ビ染色モ十分ニナスダケデ要領ハ同ジデアル、此ノ染布ハ溫氣ヲ呼バズ又殺菌ノ效果アリ肺病ソノ他傳染病ノ豫防ニ效果アルトイフ、主トシテ夜具地蒲團地等ニ用ヒソノ他樂器ノ入レ物等ニモヨク使用スル

（八）茜　染

あかね Rubia cordifolia L. var. Mungista Miq. ノ黃褐色ノ根ヲ用ヒテ染料トシあかね染ヲ製ス染上ゲハ帶褐ノ黃赤色デアッテ、染方ハ紫根染ト同樣デアル、此レモ花輪町ノ名產デ秋田特產ノ一ツデアル

（九）秋田ノ樺細工

仙北郡角館町方面ヨリ多ク產スル特產ノ一ツデアル、樺トイッテモ櫻ヲイフノデ櫻ノ皮ヲ剝イデ之レヲ色々ノ器物ニ貼リテ磨上ゲタモノデ上品ナ細工物デアル、「ステッキ」、花筒、茶筒、煙草盆、菓子盆、盆、硯箱、はがき入等種々雜多ナモノニ應用スル、下駄ノ表ニ貼ッタモノハ穿キ心地ノヨイモノデアル

（一〇）曲木細工

材ハぶなのきヲ用ヒ巧ニ曲ゲテ製作ヲスル、近來曲木ノ椅子ガ流行スル、直徑一寸餘ノ丸棒ヲ巧妙ニ彎曲シテ座ニハ籐ガ張ッテアル、此等ハ本縣湯澤町ノ產トシテ相當世ノ中ニ知ラレテ居ル、コレハぶな材ノヨイ利用法デアッテ當地ニハ相當其ノ材ガ豐富デアル

○ひまはり日ニ廻ラズ

牧野富太郎